

呼吸器外科

呼吸器外科医長	: 平見 有二
呼吸器外科医師	: 鳥越 英次郎
外科修練医	: 外科医師

「概要と特徴」

当科は呼吸器外科専門医と呼吸器外科専修医で多くの手術をこなしています。原発性肺癌、転移性肺癌、気胸、縦隔腫瘍などを対象としていますが、原発性肺癌の比率が高いのが当院の特徴です。命に係わる病気であるが故に知識、技術ともに常に高めておく必要があります。術前の準備に重きを置き、安全な手術を心がけています。関係する診療科として呼吸器内科、放射線科、病理診断科、外科、心臓血管外科など挙げられますが、垣根が低く風通し良く仕事ができています。学びやすい環境が整っています。

呼吸器外科手術数(2019年度): 149例 (このうち内視鏡下手術:131例)

肺癌	95例	縦隔腫瘍	5例
転移性肺腫瘍	10例	自然気胸	27例
その他	12例		

「初期研修の基本方針」

必修の外科研修においては、一般診療において頻繁に関わる外科的疾患を経験し、外科診療に必要な基礎的知識の習熟と、検査・処置・麻酔手技の習熟を到達目標としています。その中で呼吸器外科は肺癌症例を多数経験してもらうことになります。手術に参加することはもちろん、呼吸器に関する解剖・生理、疾患の病因・病理、診断・検査方法、手術適応、周術期管理、患者さんへの対応など考え、学ぶ機会を設けます。そして臨床判断能力と問題解決能力が身に付くことを目標としています。

「研修予定表」

行 事	曜 日	時 間
ミーティング	月・火・水・金	8:15~8:30
術後症例カンファレンス	月	18:00~19:00
カンサーボード	第2・4月	18:30~19:30
呼吸器外科手術	火・水	8:40~17:00
術前症例カンファレンス	水	18:00~19:00
抄読会及びミーティング	木	8:00~8:30
呼吸器外科カンファレンス	金	15:00~16:30

「指導体制」

呼吸器外科専門医と専修医の2人で研修医を指導する体制をとっています。

「経験可能な症例や手技」

原発性肺癌、転移性肺腫瘍、良性肺腫瘍、自然気胸、難治性気胸、良性縦隔腫瘍、悪性縦隔腫瘍(胸腺腫、胸腺癌等)、多発肋骨骨折、血胸、膿胸などの症例を一か月に10例程受け持つことになります。

手術においては開胸・閉胸、そして胸腔ドレーンの挿入、抜去などの手技を経験してもらいます。

「後期研修について」

外科専門医取得のため当科で数か月研修を受ける場合と、呼吸器外科専門医取得のため当科で1年以上研修を受ける場合があります。外科専門医取得のための研修では初期研修の基本方針で示した能力をより高めるとともに、救急の現場で外科医が必ず遭遇する胸腔ドレナージの適応を判断する能力、一人で実施できる能力を高めます。呼吸器外科専門医取得のための研修では、さらに一定レベルの手術を適切に実施できる能力を習得してもらうとともに、学会への積極的な参加・発表、論文作成能力を養うことにも力を入れます。

「研修責任者よりひとこと」

医師の能力は患者さんのために使われるべきです。患者さんに満足して退院してもらうためには何が必要か、共に考え実践していきましょう。呼吸器内科志望の方にも当科の研修は役に立つと思います。連絡をお待ちしています。

* 研修希望時の連絡先:呼吸器外科・平見